大分合同新聞
www.oita-press.co.jp
4/28 木曜日 夕刊
創刊1886年（明治19年）
大分合同新聞社
〒870-8605 大分市府内町3-9-15
© 大分合同新聞社 2016
大分 097-536-2121 別府 0977-22-2121
FAX 097-538-9674 FAX 0977-25-1230
朝夕刊 完全連続紙
単独販売の朝刊、夕刊、統合版はありません。

メルマガ
大分合同新聞 プレミアムオンライン Gate ゲート
お知らせメール通知を設定すると、メールマガジンが届きます。

熊本・大分地震

大分道仮復旧へ

GW明け目指す

石井啓一国土交通相は28日の記者会見で、大分県の大分自動車道湯布院インターチェンジ（IC）―日出ジャンクション（JCT）（17キロ）について、応急復旧工事が順調に進めば、大型連休明けの5月9日以降に復旧できるとの見込みを示した。国交省は、同区間内の並柳橋の損傷が激しいものの応急補強などにより対応できるとみている。また、熊本県の植木IC―嘉島JCTの23キロの区間で通行止めとなっている九州自動車道が、29日に全線復旧する見通しになったと明らかにした。（10、11面に関連記事）

地震による損傷が見つかった大分自動車道の並柳橋＝由布市湯布院町

石井国交相

石井氏は、「九州道の全通で、南北を連絡する大動脈が回復する」と述べた。

西日本高速道路九州支社によると、16日から通行止めが続く大分自動車道の湯布院IC―日出JCT間は28日までに仮復旧に向けた工法のめどがつき、連休明けの開通を目指して作業を進めている。土砂崩れや橋の損傷など被害の大きかった現場もあるため、一部区間では上下4車線を2車線にして対面通行にする。

復旧が最も難航している並柳橋（長さ422・4メートル、高さ最大48メートル）は、橋桁を補強し、横ずれを元に戻すなどの応急作業で対応する。「耐震性については通常走行に問題はない。16日と同規模の地震が起きても崩落することはない」と同支社。

橋から500メートルほど別府寄りの土砂崩れがあった現場では、中央線に防護壁（高さ7メートル、長さ70メートル）を設置。下り2車線を開通させて交互通行にする予定。斜面はコンクリートを吹き付け、大きな土のうを並べる応急工事をしている。

開通させながら、本格的な復旧工事を手掛ける方針で同支社は「工事の期間は未定」と話している。

避難所の閉鎖に向け物資を運び出す市職員＝28日、由布市湯布院町の由布院小学校体育館

震度1以上 千回に達す

熊本地震は28日、発生から2週間。気象庁は、熊本、大分両県で14日夜から相次いでいる震度1以上の地震が28日午前に千回に達したと明らかにした。熊本県内の避難所には依然3万人以上が身を寄せており、県は仮設住宅など計4200戸を確保する。

気象庁によると、昨年1年間に日本全国で観測された震度1以上の地震は1842回（最大震度5強）。熊本地震は発生から2週間で、その半数を超えたことになる。気象庁は異例の速いペースとみており「広い震源域で活発な活動が続いている」とし、引き続き警戒を求めている。

特定非常災害指定政令を閣議決定

政府は28日の閣議で、熊本地震を「特定非常災害」に指定する政令を決めた。被災して各種行政手続きができなくなった人たちを救済するのが目的で、運転免許証の有効期間などが特例で延長される。

延長する行政手続きや期間は所管官庁が近く決定する。対象地域は手続きごとに指定されるが、多くは災害救助法の適用と同じく熊本県全域になるとみられる。

避難所

湯布院町、1カ所に

別府市も縮小を検討

熊本・大分地震後に開設された大分県内の避難所が徐々に縮小されている。由布市は28日午前、湯布院町内に設置していた2カ所のうち、由布院小学校体育館（町内川上）の避難所を閉鎖した。別府市は公民館など8カ所に開設している避難所を29日から1カ所に縮小することを検討している。

由布市によると、町内の避難者数が減少してきたことや、由布院小児童の学校生活への配慮などから閉鎖した。利用者は町内川北の湯布院B&G海洋センターに集約される。

28日は朝から、避難所を移動するため荷物をまとめる人の姿が見られた。プライバシーを守っていた段ボールの仕切りは姿を消した。市福祉対策課の漆間尚人課長は「家の被災状況、余震への不安など避難する理由が異なる。個別に話を聞き手伝いができれば」と話した。

同小で避難を続けてきた町内川南の団体職員の女性は「人の税金で三食食べて―との批判を聞いたことがある。心が折れそう。帰れるものなら帰りたい」と心境を打ち明けた。

27日午後11時半ごろには由布市で震度3を記録する地震があった。直後には同小体育館に10人ほどの市民が避難に訪れた。28日午前0時時点で、市内の避難者は同小体育館で41人、同センターで27人、市庄内庁舎で5人だった。

別府市によると、各地区公民館など7カ所を29日午後5時で閉鎖し、トイレなどの設備が充実している市公会堂の避難所を5月8日午後5時まで残す方向で調整している。

避難者数は減少傾向にある。最も数が増える午後9時時点の比較で、27日は98人と初めて100人を切った。避難所を集約することで、避難者へのきめ細かな対応を図れるとしている。

市内では震度6弱の揺れを観測した16日未明から自主避難が始まり、同日には最大で42カ所の避難所を開設。その後、海に近い低地の避難所を閉鎖するなどして、17日夕方から学校施設を中心に18カ所の避難所を運営。23日夕方からは8カ所に集約していた。自主避難者数のピークは5691人（16日午後9時半時点）。

⑩無罪判決へ再審開始

⑪GW交通機関に空席

地震発生から2週間。損壊や余震への不安、帰りたくても帰れないわが家。なお3万7千人避難。

▽

生活再建、学校再開、日常を取り戻す動き徐々に。由布院小の避難所閉鎖、区切りではあるが…。

公 転 目 転

熱々の唐揚げ、豪快なはずみ鍋、新鮮なりゅうきゅう丼、癒やしの「大分の味」で心もほっかほか。

▽

元気です観光・宿泊施設。あすから大型連休スタート。訪れて、楽しんでくれるだけでも支援に。

大分県民つぶやきリレー Face 1158

大分市 陸上競技場職員 江藤 純(30)

震度階級関連解説表について

地震が起こると震度が発表される。震度2の揺れでは「屋

人が揺れを感じる」、震度7で「耐震性の高い木造建物でも〝まれに〟傾くことがある」ということに、〝大半〟

気象 きしょう さいじき 豆知識

われる。〝まれに〟の意味は「極めて少ない」「めったにない」で、〝大半〟は「半分以上」「ほとんどより少ない」ではないが全部に近い」、〝わずか〟が「数量・程度が非常に少ない」のように一応の目安として使用している。（日